

## 1・若年層の雇用促進について

現在、わが国の、失業率は5.7%実に390万人が失業者であり、年末には失業率が6%に届くことも予想されています。特に15歳から24歳までの失業率はOECDによると9.9%に達しております。特に、大学生の就職戦線は異常事態であり、団塊の世代の引退で、本来なら企業は積極的に新規採用をする状況にもかかわらず、未だに内定さえ取れない大学4年生が多いと聞いています。

本県は中小企業が多く、相変わらず厳しい経済状況が続いています。特に有効求人倍率が昨年度比0.6減で現在0.4前後であり、全国平均でも下回っています。働くところが無く、このような状況が続けば、長野県から若い労働者は出て行くこととなります。何とかこのような事態に陥らないために手だてを講じなければなりません。

そこで商工労働部長にお聞きします。

・正規労働者、非正規労働者に係わらず、解雇された若者の再就職の課題についてはハローワークやジョブカフェ信州が対策を進められていますが、どんな対策が講じられ効果はでているのか。現況と課題をお願いします。

○次に、本年度に卒業する高校生の就職状況ですが、求人倍率は0.6倍で昨年同期を0.48倍下回り、記録が確認できる1992年以降最小とされています。製造業が集積する東信、南信地域の落ち込みが大きいです。

現時点で、来春卒業予定者のうち3000名の皆さんが地元への就職を希望して、そのうち1800名の皆さんが就職できる見込みがですが、1200名が就職が出来ない状況です。1200名の卒業生の就職見込みが無い場合、進学するか、他県へ出て行く選択がありますが、いずれにしても本人やご家族は経済的にも大変な負担です。

飯田市を含む下伊那郡では、新規雇用ですと一人50万円の助成金が企業に出されるなど対策がとられています。

企業側からしても、本音として新規学卒者を取りたい状況にあります。高校卒業生の就職は、厳しいとは思いますがなんとか実現する必要があります。1200名が就職できない場合どうするのか。定時制は全日制よりももっと厳しい状況にあると思います。教育委員会として現況と対策を教育長からご所見をお願いいたします。あわせて商工労働部長にこの件について御所見をお願いします。

ニートが増えたり、アイターン、ユーターンしても就職が無い若者がなど、巷に仕事のない若者が溢れるほど辛い光景はありません。若者が将来に期待できる社会は働ける場所をきちんと作ることです。

県の果たす役割は大きいです。

## 2・信州デスティネーションキャンペーンについて

長野県は本年、善光寺のご開帳があり、全国から多くの観光客が訪れました。来年は諏訪の御柱があります。一方、昨年来の景気の悪化で観光人口や観光消費額は伸び悩んでいるのが現況と思いますが、なんとかして、長野県を訪れる人が増え、観光産業を伸ばし、雇用等の効果がでるように期待したいところです。

そこで、来年秋に開催される信州デスティネーションキャンペーンには大いに期待したいところです。キャンペーンは来年の10月から12月までJRグループと地方自治体や観光協会等が一体となって実施される長野県全体で開催される一大観光イベントです。

デスティネーションキャンペーンは毎年全国で春夏秋冬と年4回で全国各地で開催され、本年春は兵庫県で開催され、夏は横浜市・神奈川県で開催されました。横浜開港150年イベントはその一環と思います。そこで何点か観光部長にお聞きしたいと思います。

1・現在長野県では、中期5カ年計画を遂行中ですが、「観光立県「長野」の再興」として、平成24年度までに目標値が観光利用者数1億人、観光消費額は4千億円となっていますが、デスティネーションキャンペーンを進めていくには私は目標値を設定する必要があります。○例えば、1・入りこみ客数 2・観光消費額など目標値をお願いします。

2・このキャンペーンは県では市町村を中心とする「地域」がまず主体と述べていますが、県内の地域はどの程度今回のキャンペーンを理解しているのでしょうか。まず、県民がこのキャンペーンの内容を知ることが大切ですが、県民が理解するための努力はどんな形で進められているのでしょうか。

3・そこで、すでに、今年の10月から12月までにプレキャンペーンを実施する予定していますが、来年の本番と継続性があるものとして、すでにスタートを切ると理解していますが、プレキャンペーンのメインはどんな点の重点がおかれているのでしょうか。

3・長野県における観光物産いわゆるお土産に関してですが、全体として長野県らしいお土産が少なく外国産が多いと再三指摘されていますが、お土産も大切な観光の要素です。お土産についてもある程度県として考える必要もあると思いますがいかがでしょうか。

○この観光キャンペーンは今まで長野県の観光の集大成であると思います。中期計画の目標値である観光人口1億人、観光消費額4千億円は来年度達成できるチャンス到来です。

JRも必死ですから県も知恵と汗をかいて頑張ってください。

### 3・県教育委員会と市町村委員会との連携について

本県の教育における環境は不登校問題等、大変厳しいと思いますが、教育行政全体の指揮をとる県教委と現場を預かる市町村教育委員会が連携・協力をしっかりと取ることが重要であります。

そこで県教委として市町村教育委員会との連携など今後、どのように構築するのか、市町村教育委員会に何を期待するのか。また、今後の県の教育行政のあり方についてお聞きします。

この件についてのお答えはこの度、永年わたり長野県の教育行政と県教育委員会の発展の為に、寝食をわすれ、御尽力され、この度、宮田村教育委員会委員に選任されました平澤教育次長に伺います。

平澤教育次長には宮田村教育委員会でご活躍して頂くとともに、県教委との橋渡しもお願いいたします。

### 4・新政権に期待する過疎対策

政権交代で地方分権が大きく動きそうです。知事は新政権発足後早速、地元選出の国会議員や新閣僚を表敬訪問したことが報道されました。そこで、原口総務大臣にお会いして、いわゆる過疎法についてお話をされたとのことですが、どのような内容でしたか。

また、今回の政権交代に当たり、長野県は地方の将来像をさらに明確にしていくことが求められています。知事は本県の行財政のかじ取り役として特に過疎対策について新政権に期待したいことのご所見をお願いします。

いわゆる過疎法は財政力の弱い町村にとって命の綱です。よろしくお願いします。

この法律が新たにスタートできる為に、知事は国政に幅広い人脈と太いパイプがあります。ご尽力をお願いします。

